

12月30日、JR連合に加盟するジェイアール・イーストユニオン（JREユニオン）関東地協は、43才の主任運転士1名を新たに仲間に迎え入れた。JR東日本の健全な発展と未来に誇れる企業を創るためには、民主的な労働組合と健全で建設的な労使関係が必要不可欠であるとの強い意志のもと、JR連合・JREユニオンとともに歩んでいくことを自ら決断したものだ。

ジェイアール・イーストユニオン

関東エリア 43才主任運転士が

強い意志で自ら加入を決断！

これまでJR東日本の最大労組であったJR東労組は、すでに組合員数が1万2千人程度に減り、いくつかの新しい労組が結成されているものの、全社員の約7割が労組未加入者となっている状況が続いている。

一方、12月19日に第37回臨時大会を開催したJR東労組においては、開催をめぐる動きにとどまらず、大会中も、大会後も、組織内部の混乱が表面化し、まったく収まる様子がない状況である。

大会の開催をめぐることは、既報のとおり、東京・八王子・水戸の3地本が大会を中止するよう求める「健全な組織運営と財政の確立を求める要請書」を本部に提出していたが、本部はこれを門前払いし、さらには、3地本に対して、大会を組織的にボイコットした場合は制裁対象とすると言わんばかりに、3地本の動きを牽制していた。

また、大会の中では、3地本選出の代議員が主となって提出したと思われる、議長団の不信任、議事運営委員会の不信任、現行三役に対する不信任動議と運動方針（案）に対する3件の修正動議が提出されたが、すべて否決されたようだ。

さらに今年に入り、大会後1ヶ月が経過しようとするこの時期に、3地本は、本部に対して、「第37回臨時大会に関する抗議、および緊急措置要求について」を発信し、「制裁をチラつかせた強権的ともいえる組織運営が横行しており、統制権の乱用ともいえる事態である」と主張し、「健全な組織運営を怠り、組合民主主義に反する行為を行っている」と、厳重に抗議し、臨時大会に対する見解と問題意識を明らかにするとともに緊急措置を求めている。

民主的な労組と健全で建設的な労使関係は必要不可欠！
今こそJR連合・JREユニオンに結集しよう！

今後、働き方の見直しや新技術の活用など、働く者の環境は大きく変化していく中で、JRグループの健全な発展のためには、まともな労働組合が必要不可欠である。

JR連合・JREユニオンは未加入者をはじめ多くの仲間に結集を呼びかけ、組織強化・拡大につなげていく！